



	チェックポイント	チェック欄
授業を支える環境づくり	互いに認め合える集団づくりを行っている 例：みやぎアドベンチャープログラム、構成的グループエンカウンター、ブレンストーミングなどの手法	
	温かい言語環境で人権が尊重される集団づくりを行っている	
	黒板やその周辺には、ポスターやお便りなどを貼らず、授業に関わる情報を必要に応じて掲示している	
	共有で使う物の置き方や場所を決めている	
	活動の手順や役割分担を提示するなど、見通しが持てる工夫をしている	
	学級のルールや話合いの手順を具体的に決めている	
授業をつくる視点（障壁を取り除く工夫）	本時のねらいや活動を絞り、生徒に聴覚情報と視覚情報で伝えている (p.2「認知特性とは」参照)	
	指示をする際に、注目を促してから指示をしている	
	1回の指示で一つの内容を伝えている	
	「これ」「それ」「あれ」「どれ」などの抽象的な表現を避け、具体的に指示している	
	授業の最後に学習した内容を整理し確認している	
	生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」などの肯定的な言葉掛けをしている	
	絵や図などの視覚的な手掛かりを用意している	
	板書の文字（大きさ）、チョークの色、配置などを工夫している	
	言葉で説明するだけでなく、図示する、演じるなどの方法を用いて、理解を促す工夫をしている	
	ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている	
	課題解決までのプロセスに細やかな段階がある (p.4「認知処理様式とは」参照)	
教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどについて、復習する機会を設けている		
学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている		

※ 自分の授業を振り返ったり、先生同士で協議したりする際に活用してください